



## 故郷が被災。 歯がゆい思いを原動力に チャリティ活動を継続

vol.22

あさひグループ（東京都町田市）

町田・相模原を中心に、不動産開発・売買仲介業などを展開するあさひグループ（東京都町田市、代表取締役：醍醐一彦氏）では、毎月月初の土・日にチャリティイベントを開催。イベントで得た売上金や募金は全額、地元の社会福祉協議会に寄付している。

### 女川産の「さんま祭り」は大好評。 毎回参加するリピーターも

「東日本大震災で、私の故郷である宮城县牡鹿郡女川町は壊滅し、親戚や縁者が数多く被災しました。すぐにでも飛んで行きたい気持ちでしたが、家族や会社の運営を放り出すわけにもいかず、ただただ心配することしかできませんでした」と、醍醐氏は震災当時を振り返る。この経験を機に、「今、私たちができること」というスローガンを掲げ、4年前からチャリティイベントを開催している。

イベントでは、復興支援の一助となるよう、被災地から買い入れた食材を使ったうどんやラーメン、焼きそばなどを販売。中で



チャリティイベントは、過去4年間で約40回開催。毎回参加するというリピーターも多く、スタッフも地域住民との交流を楽しみにしている（写真提供：あさひグループ）

も女川町から仕入れたさんまを提供する「さんま祭り」は人気で、毎回約200名もの地域住民が詰めかける。

これまで約40回行なってきたイベントはすっかり地域に浸透し、リピーターも少なくない。同社スタッフも、地域住民との交流を楽しみにしており、来場者の喜ぶ顔が活動のモチベーションになっているそうだ。

また、同社は社会福祉法人まちだ育成会とタッグを組んでの社会福祉活動にも注力。チャリティイベントでも、育成会の運営する施設入所者が作成したキャンドルやマスク、便箋などの工芸品を販売している。「自分たちのつくった工芸品が売れたことに対する喜びを知ってもらい、それが入所者の方たちの働く意欲につながれば」と同氏。工芸品の人気ランキングを伝えるなどして、制作意欲を盛り立てているという。イベントで得た売上金や募金は全額、地元の社会福祉協議会に寄付している。

「決して大きなことはできませんが、目の前にある“今、できること”を確実にやり遂げていきたいと思っています」（同氏）。



あさひグループ  
代表取締役  
醍醐一彦氏